

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, March 15th, 1953. No. 257

關西大學學報

第 2 5 7 号

昭和 28 年 3 月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
復刊第二七号(通卷第二五七号)
昭和二十八年三月十五日発行(毎月一回十五日発行)



泊園文庫を觀察中のエリヒーフ教授

關西大學學報局

新卒業生諸君に與ふ

關西大学學長 岡野 留次郎

今回卒業せられる諸君に対して私は月並の祝辭を述べざることを差控へたい。今日の世界の情勢は固よりのこと、わが国の政治・行政・経済その他万般の情勢は、われわれが曾て大学を卒業して社会に巣立つていつた時と比べて、余りにも懸隔が甚しく、とても手放しで諸君の前途を謳歌し祝福する気持ちになれない。厳しきものを含んで居ると思はれるからである。われわれの時代でも社会に処する上の厳しさについて先輩から戒められたものではあるが、そこには希望に満ちた活躍の舞台が望見され、社会の辛苦と云つたところで、私ふ努力と協力に対して当然の報償の期待出来る性格のものであつた。ところで今日では世界の平和はいつ破れるかも知れない危機にあり、凄惨な戦禍がいつ見舞ふかも知れない疑惧と不安の中に戦慄しつゝある社会で、諸君は辛うじて自己の生命を持続するために何等かの生活手段を見つけてゆかねばならない状態にある。恐らく諸君の心の底には、船にも似た重いよどんだ「おり」が滯つて居るのではなからうか。

私は諸君の心からかような「おり」を取り去り得る自信を持つものではない。恐らくそれは偉大な天才的な思想家か宗教家乃至政治家のみがなし得ることであらう。私は只自分の過去の平凡な生活体験から、一二の感想を述べて諸君を社会に送り出す賤の言葉としたいと思ふ。

真実乃至真理が結局勝を制すると云ふことは、そんなに珍らしい言葉ではないが、今日のように、國際政治にはた国内政治に、その他万般の人間生活に、不信と欺瞞と虚偽と陥穽とが横行して居る時、この言葉の持つ意味は相当大であると思はれる。有ゆる悪徳や不信な行為や慘虐な罪悪が、日々新聞紙上を賑はして居る今日の社会状況下で、尙「真実が結局の勝を制する」信ずることは、中々に困難なことではなければならぬ。それにも拘らず私は虚偽こそ最大の悪徳であると思はざるを得ない。

い。人間の心を結局に於て征服し得るものは、真実であると思ふ。併し真実とは何か。そこにこそ問題があるであらう。或哲學者の云ふように、人間は真理の中にあると同時に彼は非真理の中にあると云ひ得るであらう。人間が真実を求め真理にあこがれると云ふことは本来人間が虚偽の中にあるからであらう。併しこの虚偽から逃れ真実に至らうとする人間の心こそ貴きものでなければならぬ。今日われわれの眼に余る多くの社会的な虚偽も、いつかはわれわれの求める真実に至らせるよすがとならぬと誰が断言し得よう。平和を叫びながら戦争への道を急いで居る人間の姿の中にこそ、人間生活の矛盾と苦悶が現はれて居ると云えよう。只われわれが真理の終局の勝利を信ずる心に於てのみ、前途への希望と生活の明るさを維持できるのではなからうか。

更に進んで考えるならば私は真実とか真理とかとは色々の種類や段階を考え得るであらうが、結局の真実とか真理とか云うものは真不真を超越した真実、善不善を超越した善と云ふ風に思はれる。現象的な善不善に捕はれて居る限りでは、真実の善に至り得ない。真実の善に徹する限りには於ては、現象的な不善も善に転ずることが出来る。善悪無差別なのではなくて善悪の底に徹した善に生きるのである。宗教にはこれを魂の救と云ひ、神の恵と云ひ、或は法悦と云ふ。そこには深い悦びと共に深い悲しみがあり、清らかな諦らめと共に深い執着があり、和やかな春の暖かさと共に厳しい冬の冷たさを含んでゐる。この真実へ徹する限り、単なる個人の救ひでなく、人類全般の救ひの念願に目覚めざるを得ない。単なる魂の救ひのみで人類を救ひ得ないことは云ふまでもないが人間の生物的生命の救ひも、魂の救ひによつて裏づけられねば、真の救ひとならないであらう。

しかしかような問題に深入りすることは今の場合ふさはしくはない。私は今哲學的な思索を諸君に勧めて居るのではない。只諸君が世に立ち困難な生を生き抜く魂のより所をどこに置くべきかについて、只自分の信念の一端を述べた。諸君には老人の単なる寝言と響くかも知れない。併し私に取つては単なる贅言ではない。諸君の参考ともなれば幸である。

近世封建時代における土地所有の問題

魚 澄 惣 五 郎

日本古代における土地配分法即ち班田收授の法は、六年ごとに戸籍を改め、良民の六才以上の男に田二段、女はその三分の一を與えて田租を徴收し、死すれば田を收公するというので、これは大化改新政治の根本とするところであつた。この土地国有制のもとには、東洋古代の政治思想たる「普天の下率土の浜王土にあらざるはなく、王臣にあらざるはなし」という王道思想が潜んでいるので、全国の土地は朝廷のものであるとする王権論もこゝに出發している。江戸時代末、云いかえれば明治時代以前では土地所有権は上にあつて、下人民はたゞその命のもとにこれを耕作したに過ぎないので、土地を私有物とすることは明治時代に現われた一大変革である。この時はじめて人民に土地所有権が認められたと考へた人もあつた。しかしこれを単に素朴な思考として一笑に附すべきではない。この思考は封建社会において、將軍が日本全国の土地所有者であると考へるもの同一である。

一体歴史的に見ると日本人は土地所有に關する觀念の發達が遅れていた。土地そのものよりも、土地の生産物又は收益の根源としての土地を把握することを主として考へ、土地そのものを重く考へなかつた。中世以後給與としての土地を表示する場合に土地そのものを指示しないで、貫高や石高で示し、田畠を何町何段とは云わない。封建的支配者は收益が主で、土地その

ものゝ所有権を強く主張しなかつたことを示したもので、つまり生産收益の根源としての意味における土地領有が意識された。だから近世大名の領分、封地とは畢竟所當のことで、近代的土地所有とは意味を異にし、その土地に対する行政的な支配権と年貢徴收とを指している。中世庄园時代における土地領有は事実關係であるが、大名領地は武家政權なる国家統治權を背景とするもので、わが古代の田庄・封戸などに近いといつてよい。

「封建的生産の根柢をなす土地及びその土地をして貢租の生産地たらしめる労働力としての耕作人」がいわゆる檢地帳に記載された。その土地は人の支配を基礎としての土地で、土地そのものゝみでは領有の対象にはならない。人を離れて土地そのものに貨幣価値がはつきりつけられて来ると、大名の領土なるものは従前のものと異り、もはや封建的領有ではない。こゝに近代的土地所有権の性格が窺われるようになるので、土地がかく考へられるようになった時、それは封建大名の消滅した時である。

近世封建制が完成された時、つまり江戸時代初期にあつては、耕作地をもつ農民自らは土地所有者であつたとは、はつきり意識してないだろう。いわゆる土地所有者・地主とは作人のことで小作人はその下請に過ぎない。檢地帳付の百姓はかゝる意味の作人であ

第二五七號 目 次

卷頭言	岡野留次郎(2)
近世封建時代に於ける土地所有の問題	魚澄惣五郎(3)
学内報	(5)
校 友	(6)
新卒業生に贈る言葉	(9)
学内こぼれ話、学報速報	(15)
学 生	(16)
考え物新題 其の二	一鶴字人(18)
編集後記	(19)

る。然るにその後寛永十九年の飢饉の翌年幕府は田地の売買を禁止する旨の觸書を出した。これは前年から凶作に關係があるかのようであるが、実は商業發展の波が農村を洗うようになって村落制が次第に變貌したからであつて、村落制を維持し、貢租を確保しようとする根本策とも見られる。即ち資本主義發展が封建的土地領有制を動搖せしめて来たことを意味する。ついで発令された寛文十三年の分地制限令も同様の意味からである。

階級的身分や武力で土地を收得したものと、貨幣を代償として土地を手に入れたものとは、土地所有者としての意識に相違がある。かくて大名領主とは非合理的で、擬制だと考へるようになるので、つまり貨幣的財産の發展は大名領地を擬制化してしもう。大名及び家臣が江戸や城下町に集中して土地から離れるに伴い、武士は新に土地を確保する手段を計らねばならなくなつて来る。その支配強化の一方策としても、売買質入禁止や分地制限を発令したので、いろいろな規定を設けなければ、土地は失われてゆくのである。元來大名には直營田的なものがないから、大名はいよいよ土地から浮び上つて單なる政治的支配権者となる。しかし土地は他の貨幣財とは異つて上層の権力が公然と支配する形態をとり得るから大名の所有権の形態が持続されたように外見上は考へられ、また社会機構はその變質を早急には表面化せしめない。やがて明治維新の改革と共に農民の土地所有権が公然と明確にされ、明治五年には土地売買の禁止が解除されたのである。しかしある論者は封建時代に幕府や大名が土地を領有することは、私法上の所有ではない、その權利内容は單なる課税徴收権で、私法的所有権は農民にありと断定して、大名の封地は公權的領有権とみなし、封建的

治者即ち大名は土地所有権なく、農民の土地所有権を肯定している。

ところが一方では、これを皮相な考察とし、武士階級の手土地所有権あればこそ、農民の生活を脅かすことが封建的搾取が可能であつたので、武士階級に土地所有権なくして如何にして封建社会が存在し得るのであるかと極めて割切つた論断を下すものもある。

勿論農民の耕地は明確な近代的な意味の所有権に属するものでなかつた。土地の売買禁止、分地制限・作付の制限などは、幕府や大名によるいわゆる生産管理で、徴税の根拠も累進賦課でないから財産税とはみなしていない。また松江藩では、寛延三年の法令中に「すべての国中の土地は少分のところまで皆公物で、下として私すべきでない。従つて野山を自分で仕立てたところが、その者の所有という訳ではない。これをとり上げたとしてよい」また寛延元年の法令では「大高持の百姓中には、心がけの悪いものは一切を手代や下手人にまかせて、自分の田地の境目さへ知らないし、田畑の手入もしない。大切な土地を頼りなが、天理を弁えない所存である。かゝるものには田畑をとりあげて他の者へ配分する」などいっている。しかしだからといつて土地所有権が大名にあつたとはいえない。

要するに大名領地は完全な自己の所有地とは考へられないので、封地とはその領域の政治的統治と使用収益と相續とが行われるが、もとより完全な処分権はない。つまり封建的預り地で、従者として奉公の義務を果さなければ没收される性質のものである。たゞ上層領主の政治権力の弱化によつて、その封地が自己の所有地らしくもなつてくる。農民もまたその土地を領主から分割して與えられ、その與えられた土地を耕作している訳で、これもまた封建的預り地で、農民はその

土地から収益し、相續することができるとは完全な処分権はない。農民がその土地を保つためには、奉仕せねばならない。即ち年貢を納めることがその主たる義務である。かくて上下の封建的主従關係が成立したのである。私は封建社会における土地所有の問題を西歐的乃至は近代的概念で割切らうとするところに無理があるとするのである。(文学部教授)

校友名簿發刊に

ついで

校友各位に急告

待望の校友名簿(昭和二十八年用)が愈々出来上りました。就きましては校友相互の消息を知る意味に於いて、左記御高覧の上、是非売切れぬ間に至急御申込下さる様お願い申し上げます。

昭和二十八年三月

大阪市大淀区長柄中通二の二二

關西大學(校友課取扱)

記

型B列五号 頁數四百九十頁 価格參百円
払込方法 振替口座大阪一二八七五番

を御利用下さい
校友課へ御來駕の上、現金にて御払込下さつても結構です

學内報

エリセーフ教授來學

ハーヴァード大学東洋研究所長S・エリセーフ教授は二月二十四日午後一時千里山学舎に來訪、石浜、高橋、壺井、堀横田の諸教授、三上助教授、板原講師らに迎えられて大学ホールに入り懇談、研究室等を巡視の後、図書館で泊園文庫等の古文獻の整理状況を視察し、午後三時半離學した。

人生のスタートラインに

一 高卒業式

関西大学第一高等学校第五回卒業式は三月一日午前十時より同校講堂で來賓、父兄等多數參列して挙行、北村進君他二九〇名に卒業証書が授与された。同時に、木原義人君に善行賞が与えられた他四三名が優等、佳良賞、精勤賞及び外部協会、連合会等より賞状並びに賞品を受け、螢の光と共に、在学生代表大城健一君の送別の辭は惻々として胸を打った。尙矢口家治校長は式上概略次の様に述べ卒業生を激励した。

卒業式は業を終えたとする式ではない。新しい人生へのスタートである。今日の語子はそのスタートラインに立つているのである。外国の言葉にコメント、或はグラデュエイション

というのがある。普通これらは卒業という語に訳されているが、私はむしろ、出発といふ目盛を刻むという意味に強い意義があると信ずる。諸子は本校卒業によつて新しい社会へ出発したのであり、長い生涯の一段階を刻んだのである。諸子の将来は輝やかしい。自重して新に新しい目盛を深く刻まれん事を望んで止まない。

法・經・商は競争率四倍

学部第一節願書締切

二月二日より開始した各学部入学願書受付は三月九日締切つたが法学部、経済学部の四倍弱、商学部四倍強、文学部の三倍強と前年度に比べて総数で約四〇〇の増加を見た。尙各学部の分類は次の通り(括弧内は定員)

法一 法(400) 文 文(1000)
經一 經(400) 商 商(1000)
計 計(2) (昨年度 計(1))

尙各学部二部及び短大の締切は三月二十三日であるが三月十日現在数は次の通りである。

法二三七、文五三三、經二〇一、商一一二
〇 短大三五(二部五八)

第一高等学校は三月五・六日の入学試験を終え、八日受験者五五七名の中二三〇名の合格者発表を行った。

學部入試始まる

トップは経商十二日から

學部入試のトップを切つて経済學部及

び商學部第一節の入学試験は三月十二日午前十時より女子学生六名も交えて適性検査、英語、國語、社会の順で行われた。

關西工業專門學校長事務取扱に矢口孝次郎教授

故吉木一朗教授の逝去によつて欠員となつた關西工業專門學校長事務取扱の後任に矢口短大部長が三月五日付を以て任命された。

島崎捷爾氏推薦校友に

島崎捷爾氏(芸名志村 喬)は二月十九日理事会に於て寄附行為第三十五條2項により校友に推薦された。同氏は大正十四年三月關西大學專門部予科修了同年四月より昭和二年九月三十日迄専門部に在學した。

新校友名簿發刊 十一

振りに

かねて各方面より要望されていた校友名簿は、校友課に於て鏡意刊行準備中であつたが、このほど完成の運びとなり三月中旬より頒布することになった。掲載人数約二万名、十一年振りとなつて既に多數の申込があり、受付担当の校友課では初版の部数にも制限もなり、成可く早目の申込みを希望している。頒備は一部三〇〇円。

職業輔導にタイプライター

職業教育の一環として更に英文タイプライター二〇台を購入、強力に職業輔導を推進することになった。これらは四月の新学期より実施される。

經理關係連絡談話會

日本私立大學連盟主催による第一回經理關係連絡懇談會は二月十八日明治大學大学院に於いて開催され、昭和二十八年度振興會貸付金借入、教職員給与その他學校經理に關する問題の討議が行われ、本學より桂經理局長がこれに出席した。

學士號二十四種類決る

本學は従來通り

新制大學卒業生に対する學号の稱号については、かねて大學設置審議會において審議中であつたが、この程二十四種の成案を得、二月二十六日付をもつて文部省より通達があつた。本學に適用する學士号は従來通り法學士、文學士、經濟學士及び商學士の四種であるが、新しいものでは社会科学士、芸術學士、體育學士、家政學士等の稱号がある。

學會出張

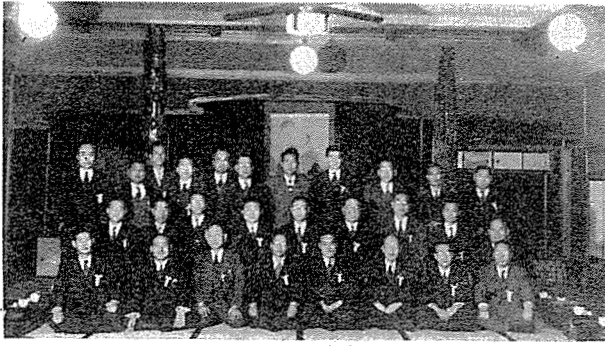
- ◇飯田正一・吉永登教授は、一月三十一日大阪女子大學に於て開かれた近世文學會に出席、飯田教授は「守武千句の成立」について研究発表を行った。
- ◇河村宣介教授は一月三十一日同志社大學に於いて開催された日本商品學會関西支部會並に役員會に出席
- ◇松原藤由教授は二月七日立命館大學で開催された學生部部長懇談會並び學生製菓懇談會に出席
- ◇岡野學長は二月七日、八日の兩日東京教育大學及名古屋大學審査の為東京及び名古屋に出張。又二月二十六日文部省で開催の大学院審議會に出席

校 友

東京支部春季懇親会

盛大に開かる

東京支部は二月七日午後五時より大森海岸松茂本店大広間にて、大学側より来賓監事西尾専太郎氏を迎え、又今般東京



東京支部

警視に昇進した大正十五年校友山地利仁氏の祝賀会を兼ねて盛大に催された。先づ副支部長安田日出男氏よりの開会の挨拶並に各校友の近況を詳細に報告さ

れ、校友大月義平次氏の逝去を悼む黙禱が行われ、支部長よりの挨拶があり、尙今般の評議員会の報告があり、会員各位に新年度卒業生の就職斡旋の要望があり、西尾本学監事より大学近況報告について校友との質疑応答が活潑に行われた。小地利仁氏の感謝の辞あつて会議は終り、各自の余興が十数名の美妓がはべつて催され、板橋経済学博士を筆頭に全員逐次演出、和氣に満ち最後に長老平岡啓道氏の発声にて母校万歳を三唱され、自然の秀麗を高唱し宴を閉じた。時刻は正に午後十一時、今回は四月上旬白川理事長を迎えて催す予定、尙当日参加者は左の通りである。(福岡繁芳氏報)

- 大学側 西尾専太郎監事
板橋菊松、井口卯平、畑孝二郎、西川正一、堀義宏、大島幸太郎、大関親太郎、大谷恭一、川越武明、香西政一、門田侃、田辺明四郎、田中壽藏、田中敏衛、高乃鐘、中山幸市、村崎正幸、山地利仁、福田繁芳、安田日出男、酒井実雄、沢田勇夫、清野静一、下出宏造、島英夫、平岡啓道、瀬尾永治

(敬称略 いろは順)

大阪国税局に

秀麗会誕生

大阪国税局に勤務する校友は多数あるが、そのうち役付職員(係長以上)にて相互の親睦を図る為、秀麗会が結成され

昨年十一月第一回の会合を京都で、第二回を本年一月新年会を兼ねて大阪で開催し、幹事に大浦、平岡、前川、畑中、村上の各氏、常任幹事に村上氏が選任された。今迄職務上のみで知つた間柄が、なつかしい母校の校友であることが判つたりして、一層親密感を加え極めて有意義であり永続が期待されている。なお会員はつぎの通りである。(前川大良石門氏報)

- | | | |
|--------|-----------|----|
| 吉田鹿之助 | 調査査察部長 | 大三 |
| 大浦 信三 | 調査第二課長 | 專七 |
| 平岡喜志雄 | 酒税課長補佐 | 專八 |
| 前川大良石門 | 法人税課長 | 專九 |
| 畑中 龍二 | 人事課長補佐 | 專九 |
| 溝畑 由造 | 所得税課長補佐 | 專九 |
| 齋藤 美夫 | 統計課直長 | 專九 |
| 上野 末光 | 調査第五課長 | 專一 |
| 河田 治 | 所得税課長 | 專三 |
| 橋本 順行 | 査料係長 | 專五 |
| 村松 勝巳 | 調査第三課長 | 專二 |
| 荒井 広 | 會計課経費係長 | 專六 |
| 藤倉 繁晴 | 調査第一課長 | 專六 |
| 下西 清望 | 徴收部長 | 專七 |
| 村上 健一 | 徴税課企画係長 | 專八 |
| 松村 義雄 | 調査第一課長 | 專五 |
| 山崎正五郎 | 徴收課指導第三係長 | 專五 |

二十週年記念行事

第一回は四月十二日に

千里山 昭八会

二月六日午後五時半より、北浜グリルに於いて委員会を開催、昭八会二十周年記念行事について協議懇談が行われた。幹事より現在迄の経過報告があり、更に提出された具体案について種々意見交換を行い、左の事項を決定した。

昭八会二十周年記念行事の第一号として、恩師を迎えて感謝の意を捧げお互いの健康を祝して、謝恩祝賀会を来る四月十二日(日)、南海沿線羽衣荘で行うこと。尙宴会会場係、記念品係、名簿作成係等の小委員会を設け、今後万全を期して準備に邁進して貰うことを申合せ、小宴に入り大いに気焔をあげ午後八時半散会した。当日の出席者は次の通り。

- 浦野健次郎、大島武夫、木下忠夫、水野政成、田淵三郎、中家利国、山尾義春、中村重男、美吉克之祐、賀本敏英、一瀬義次、荒川虎一郎、広瀬義臣、吉田一郎、高瀬新吉、長沢健一、齋藤正興、宮脇慎一郎、平井三朗(敬称略、順不同)

又二月二十一日当日稀に見る大雪の中を獅子に於て第十五回例会を開催、雪のせいもあつて参集者も多少減少したが、丹波の奥から物凄く装束で出席したのもあり、その熱意に打たれた。一同先づ内湯の暖を採り、折柄の大雪は期せずし



十四會總會

て雪見の宴となり、童心に還り愉快なる雰囲気を醸した。幹事より二十週年記念行事の具体案について諸報告あり、その再確認を得、愈々三月上旬より決定案に基き準備にかゝることになった。行事を更に強力に推進する為多賀恒一氏を実行委員に推薦、主として神戸地区を担当して貰う事にした。更に会員よりの提案によつて母校えの記念植樹を行事に加えることになった。議事終了後、雪の濛路島を眼前に舞子の雪景色を満喫しつゝ打寛ぎ飲を尽した。一同麻雀に、閉塞に夜の更けるのも忘れてその夜は宿泊、翌二十日散会した。

当日の出席者は次の通り。
大島武夫、浦野健次郎、中家利国、山

尾義春、齋藤正興、広瀬義臣、多賀恒一、宮脇慎三郎、平井三朗、高尾省三、西村善雄、野田文雄、荒川虎一郎
(敬称略、順不同)

— 何れも平井氏報 —

十四會總會

二月八日午後三時より大正十四年度専門部卒業生で組織している関西大学十四會總會が、井一賢一君の御尽力によつて久左衛門町「春日」で催された。定刻參集者十四名、当日は特に本會育ての親である安田清治郎君の都合で特に風間の時間を選んだが、遂に同君の顔は見られず残念であつた。集まる者中々元氣潑刺として目下の經濟不況、彼何者ぞの感があり、何時も元氣な岸田駒太郎君が進行係となり、前川信之助君の開会の辭について、西村三郎母校監事から経営面の佐伯三郎母校教授から教學面の話があり、後大いに呑んで笑い、在学中の思い出話に花が咲き、友人なればこそその秘話も感涙山に、夜の更けるのも知らなかつた。宴後記念撮影をし、再会の機を早きを約して心惜しみつゝ散会した。

当日の出席者は次の通り。
小林喬一、松岡繁晴、西村治三郎、千頭喬一、泉義三、井上賢一、佐伯三郎、今井忠勝、前川信之助、茂野富士憲、竹林直信、妹尾光泰、梶山恒雄(旧古郷)、岸田駒太郎(順不同、敬称略)

東任吉支部發會

大正十四年度専門部卒業生の名簿が出來ていますから左記へ申込んで下さい
大阪市北区網笠町大江ビル内
岸田駒太郎方 関大学十四會宛
(茂野富士憲氏報)

三月一日(日)午後一時より大阪市東住吉区田辺本町五丁目日赤奉仕団田辺本部會館に於て開催、本會は東住吉区内に居住する校友會會員中の有志の者を以て組織する(會則第三條)

深井敏雄氏(昭15商卒)の司會で議事進行、開会の辭發起人松井剛氏(昭7經卒)、祝辭中石清一氏(昭5法卒)、経過報告平野耕造に引続き會則案を審議し役員を左の通り選出決定した。

- 支部長 関矢貫一郎(昭13政卒)
- 副支部長 平野耕造 深井敏雄
- 小泉博之(昭23經卒)
- 幹事 森壽藏(昭23法卒) 秋山剛(昭23經卒) 樋口衛(昭23經卒)

顧問は近く開かれる役員會で推薦決定する予定になつてゐる。

議事終了後自己紹介に入り坪内吾一氏(大正15学商卒)の飛入り演説あり終始和氣満場に溢れ活潑なる論議がたゞかはされた当日特に校友課長安井章吾氏御臨席本学近況の説明あり一同母校に対する関心を一層深くし盛大裡に閉会した。

尙二月二十五日附で当支部第一回總會開催通知を兼ね「會報創刊号」を發行し會員に送付したが地域的に相当広範圍にわたつてゐるので今後の發展が大いに期待される。

当日の出席者左の通り(順不同敬称略)

- 支部側 安井校友課長
- 大学側 小川修(昭26学一商) 田辺雅一(昭26専二經) 坪田吾一(大正15学商) 松井剛、杉本石翠(昭8専二經) 秋山剛、淺野時夫(昭9学經) 柴清臣(昭26専二經) 平野耕造(昭10法) 森壽藏、樋口敏雄、得居漸(昭24専二法) 樋口順享(昭27經) 吉井栄治(昭10専二法) 中野一郎(昭26学法) 樋口学(昭25学法) 中石清一、沢田康治(昭13学法) 岩花園雄(昭4専商) 関矢貫一郎、藤崎幸一(昭26専二經) 鞍川国二(昭26学二政) 山上佳久二(昭25学法) 置田徳治郎(昭5經専)
- 委任狀 松谷連哉(昭9学法) 織田九郎(明39専法) 古川広二(昭26学商) 速水俊彦(昭26学經) 栗駒正和(昭27大学院) 峯本勝義(昭25經)

以上

神戸地検検事正安井氏

歓迎祝賀会開催

旧畿全的に檢察首脳陣の大異動が行はれた際名古屋地検検事正より神戸地検検事正に御栄転着任せられた校友安井栄三氏を迎えて神戸支部では二月十四日午後四時より兵庫県織維会館清交俱樂部に於て歓迎祝賀パーティを開催した、参会者四十余名の多数に上り母校よりは熊々岩崎教授及春原理事の出席を得て錦上花を添え、盛況を極めた。

先づ向井副支部長の開会の挨拶に次いで校友有志を代表して山崎敬義氏より安



歓迎会記念撮影

井検事正と大阪地検在勤当時の懐旧談を交えた慶福の挨拶を述べれば岩崎教授が母校を代表して明快な熱辯を振はれて懇な祝辞を述べられた。

安井検事正よりは巧みな話術を以て時にはユーモラスな時には感銘を与える有益な談話を交えた答辭があつて出席者交々自己紹介を行い最後に土井神戸辯護士会々長の発声に依つて安井検事正に祝意を表する万歳を三唱すれば安井検事正の発声で関大校友会神戸支部の万歳を三唱して六時頃大盛會裡に散會した。

当日の出席者は左記の通り。

- 岩崎卯一、春原源太郎、原田鹿太郎、岡田退一、安長義美、大白慎三、山崎敬義、角田好太郎、星野正身、向井裕亮、貴答喜作、堀上与作、林義夫、山本春治、難波方、渡辺道男、吉田正幸、本田由雄、大谷隆広、紙正義、光島正典、中藤幸太郎、日高良雄、小林剛、森又雄、西光健次、照繁造、瓦谷米雄、水本信夫、水本千代松、井沢国雄、土井美弘、細井三郎、岩本信正、橋本太一、下条小野右衛門、森知己、栗坂諭徳永武、多賀恒一、氏林清（順序不同敬称略）

(向井裕亮氏報)

南大阪関大クラブ結成会

関大クラブは、去る二月二十六日、アベノ橋キリン・ビル二階特別室に於て懇親会を開催しました。南大阪といつて

も大体南区を含み、遠く泉南方面にまで伸びる、極めて広範囲のものであります。大方の御賛同を得し、多数の御入会を各位にお願申上げます。

二月二十六日の結成会は、文字通り盛況裡に酒盃を傾け、六時に開會し、九時に散會しました。一同、懐旧談に花を咲かせ、母校の現状に対する強い要望も出ました。殊に、一、校友名簿の配付の確実化、二、各地域卒業生の連絡強化、三、教授先生方の御出席の要望、四、理想として大阪校友会館の建立、五、若手研究者(助手、副手)の援助及び留學支援、六、学生の質的向上への要望等でありました。席上小島龍太郎氏より連絡場所として同氏経営の旅館「大市」応接室の提供が満場一致で承認されました。校友各位におかれましては、何時でも立寄つて下さるようにとの事でありました。なお会則では、世話人を置くことになっていますが、次回(六月上旬予定)の躍進大会まで選任を保留し、一応、仮りに、阿部野区松崎町一丁目(アベノ近鉄百貨店南横通り東入)の鈴木武夫氏(弁理士)が、事務的な世話をされることになりました。

なお、常友正司氏(東西証券営業課長)浦地辰雄氏(会社々長)等談論風発、誠に痛快の限りでありました。御報告すべく、他の諸氏のことも多くありますが、紙面の都合上、これにて終ります。是非

各位の御協力をお願申上げます。

出席者(順不同、敬称略)

- 池田良一、小島龍太郎、中井猛、田村秀榮、吉岡彰夫、長谷川博、田中保、谷口某氏、萩原公、藤田初海、関矢貫一郎、浦地辰雄、常友正司、金沢佳郎、上西榮万、鈴木武夫

泊園文庫にて

エリセーフ教授の巧みな日本語には驚いた。完全な日本語である。一寸した外人の片語とは段違いである。それに片仮名、平仮名はいわずもがな、泊園文庫の漢籍等も読み且つ書くのだから完璧である。今私共の所で辞書を作っています。漢字のです。一寸ばかり時間がかりますがね。それはね例えば「子」と云う字があるでしょう。それについての辞書ですよ、その字の歴史、変遷、用使その字を属とか旁に使つた文字を調べるなど、とても大へんです。「子」というだけで四〇頁はありますよ。出来るのはいつになることやら……。//流石アメリカと感心したり、それだけの努力を払う熱意に感激したり。表紙写真は、泊園文庫のエ教授、右石浜教授、左高橋教授

(記者 田中兵衛)



新大学卒業生全国で約十二万と稀に見る膨大な数字は、国内の経済的不振を因に果然、社会への狭き門の嘆きを見せ、更に日経連の赤い学生お断りの宣言は前途に暗影を投げたが、とにかく今春学成つて去り行くあの人の人に、惜別の念に堪えず、編集部の請いに応えられて、学内外より多数の御恵投をいたゞいた玉稿をこゝに収録して、敢えて卒業生の門出に贈る言葉とした次第である。(編集部)

卒業生よブライド

西尾専太郎

輝かしき春は悠揚と展かれ幾多の感慨をこめて、校門を去る諸君の風光り天地に充つる生氣は社会人としての第一歩を迎えるのである。新しき最高の教養と智性、母校の古き傳統の誇りをしつかりと身につけて、勇ましくスタートする諸君に心からなる祝福の「おめでとう」を申述べる。おめでとうの芽は自己を知る眼であり、大社会への発芽である。今日迄の深き教養は大いなる根を張り又は無数の小根となつて己を支持し、而して新しき社会を支持する大原動力となるのである。

諸君よ吾々の世代は決して雲静か、海平らかではない、若き君達の掴まんと欲するもの又は創造より深さへの追求せんとするものを現今こそ認識され

己の紋章に光輝を添うべきである。幾多先輩も之を体験して現在に到つている。関西大学卒業生たる事は自己の歴史の燦然たる一ページである事を肝に銘じ大いに社会人として己を高め若き力を過信する事なく、堂々たるブライドと、洋々たる希望を以て強く如何なる難関をも克服して将来への大いなる飛躍を期待し大成を祈つて止まぬものである。(本学監事)

いでたちの人のしるべにて

川上敬逸

社会は一つの訓練である。大学を出たばかりの、二十数年前に耽読した故レオン・デユギー教授 Leon Duguit (1860-1928) の著る著作のうちにある一句である。
ラ・ソシエテ・ユ・ユヌム・デイス
シプリクス La société est une discipline.
霜の朝、星の夕。ひとり、道すがら

くちすさんだことばである。夫婦、父子、兄弟をはじめとして、恋愛から、はては闘争や戦争にいたるまで、なべて人の世のいとなみは、日毎の切磋であり、琢磨であり、また訓練であるにほかならない。実証主義の旗印しの下に雄渾なる社会連帯 solidarité sociale

のドクトリンをふりかざして、その生涯を貫き了えたポルドーの碩学の教訓が、この書架に立ててあるデユギーの影像(富島綱男先生より恵与された)とともに、光のうちの浮彫のようにしられる。

××××
生きとし、生くるものは、進歩するか、退歩するか、である。

大正十四年のことであつたらう。わが国で、はじめてあらわされた福田徳三博士の「社会政策原理」の開巻第一頁にあつたとおもう。

それから数年の後、同じデユギーの著書に引用されているバルツール Jean Louis Barthou (1862-1934) の、
「人とは時代とともに生きねばならぬ」。

Il faut vivre avec son temps
××××

「山こえれば、またつぎの山
いでたつ若駒たちよ、歩めよや、生き甲斐のある一日、一日を。」
(法学部教授)

輝やかしき失敗

藤田進一郎

日本が日露戦争に勝つたとき、ロン

ドン・タイムズは、教育の成果だといつた。果してその通りならば、太平洋戦争に負けたのも、教育の結果といわなければなるまい。実際、軍隊教育、師範教育はもちろん、その他すべての教育、大学教育までもひつくるめて、根本の人物開眼、Wisdomの形成を忘れた浮薄な功利主義的主智教育によつて歪み作られ、限られた専門の視野をこえて、広びろとした地平線を望むことを知らないはゆる実際に役だつばかりの人々を、指導的地位に優先的におしあげて采配をふらしめ、その節度に服従した結果といえよう。

この致命的弱点を情弊とを除くために戦後教育制度が徹底的に改正され、その最高段階たる大学の課程を、諸君はこゝにめでたく修了して世の中に出てゆかれるのである。世俗的、事務的智識や才能にはまだ慣れていないといえ、紛々たる外界の現象を真理に転位する睿智、あらゆる分野の経験を、ヒューマニズムの究極焦点に結びつける法則、すべて哲学的角度から、事実の意義を評価する心の習慣、即ち一括して art of thought を身に付けてをらるゝはずである。この点にあくまで永き傳統あり光榮の歴史ある関大の卒業生たるの矜持と誇りとを保ち、社会的指導者をもつと任じ、次期国運の担当者として大いに、太平洋敗戦の不

幸を絶対に繰り返さざらんことを切望したい。

ハルド・ラスキーは、その十五年間の大学教授生活を回顧して、「まことに至難のわざである。著名の大先生たちウイリアム・ゼイムズやT・H・グリーンや、フレデリック・ターナーやまたモリス・コーエンすらも、自ら顧みて、輝かしくも失敗であつた (failed splendid) といふであらう」といつている。ましてや不学不肖のわれ、最善を尽しながらも、名残りおしく学園を去りゆく若き友とちを見送つて、あゝもしてやりたかつた、こゝもすればよかつたと、いたづらに遺憾におもふことのみ多く、「輝かしくも」どころか、あわれにも「みじめに」失敗の外なかつたことを諸君にわび、深き自責自省とともに、こゝに諸君の健康を祈り、激励の辞をはなむけすることを大なる喜びとするものである。

(文学部教授)

友情を永く

中井 駿 二

人生において友人を得る機会は数多い。だが大学生活において得た友情ほど純粹なものはないと私は思う。それは利害打算によつて結ばれたものでもなく、職業上の必要から、心にもなく

つきあうものでもなく、また単なる社交によつて得られるものでもない。永い学生生活間に、人格と人格とが、時には衝突し、時には融合して、おのずからそこに結ばれたものである。

人生においてよき友達をもつことは大いなる楽しみである。諸君は、言葉の最も深き意味における友情を、この学園において得られたに違いない。どうかその友情をいつまでもはぐみそだててもらいたい。(文学部教授)

新鋭を迎える

安井 章 吾

卒業式をさかんに、関西大学生から関西大校友になられる皆様に、衷心より歓迎のことばを申し述べます。

明治二十二年の第一回卒業式は、仮校舎である北区河内町の興正寺で行はれましたが、当時の文部大臣樺本武揚氏が、態々その卒業式に臨場したと云うほど、本学は創始時代から中央政府から認められていたのであります。爾来、輩出した校友は四万余名、地方支部が四十あり、官界、実業界其他に活躍しておられるのであります。愈々、新卒業の皆様方も、四月から新しく校友となり校友会に御入会になるのであります。

校友会の目的はその会則第二条にあ

ります様に、会員相互の交誼を厚くし、母校関西大学の隆盛を図ることを以て目的としております。

御卒業後も、なにとぞ母校天六舎の校友課と御連絡の上「有機的な聯繫」と云うことを、常々御忘れのない様御願致します。

十一年振りに、やつて校友名簿(B列五号、頁数五百頁、価格三百円)が出来上りました。紙上を通じて、手にとる如く先輩校友の現況が見られます。いろ／＼の意味に於て本名簿を御備えになれば便利な点が、多々あることと思ひます。

是非御購読下さる様、切に御勧め致します。(校友課長)

永久の都市へ

井上 吉次郎

大阪は由緒古い庶民の都である。ここに生れたものも、諸国から集つたものも、みな腕一本で、こゝを生活の「場」として、運命をきり開く。私は、十三才、学校(小学)を出た年、金二十五銭持つて名古屋から歩いて大阪に出て来た、いま七八百人工員を使つて盛大にやつてる工場主の話を開いた。鍛冶屋の向う樋に住み込み、始終頭をなぐられた。それで人の頭をなぐる身分になるのが念願で勉強した。

工場事務員になる誘惑が幾度かあつた。けれども、中学校も出ていないものが、そんなことやつても先が知れて、それに部課長といえども上役を持つ、それじゃ頭をぶたれる身分だ。遂に二十三才ではじめた鉄工場を独力で三十幾年やり通して来た、ということだつた。

こんな逞しい独立の精神が庶民の町の大路小路そこいらに転がつてゐんだ。これはこの町の中小工業者に、多かれ少かれ、共通の、とことん生き抜く、ふてぶてしい意力とみられる。

政府の援助とか、政治的利権なんか当てにしない、自分の力でやつて行く。景氣不運氣は世間一統免れない。しかし、どんな不況に沈淪しても、破産も失敗も、遂に、この逞しい意力を破砕し得ない。大阪人は不死身だ。どうでも生きて行く。故に、この都市は、町人の「永久の都市」である。

関西大学は、この「永久の都市」の中に自然に出来た、力強い学園だと思える。立地条件は極めてよい。無論、大阪の学園は、こころこころでない。国公立幾種類種の大学は算えきれぬほどある。この有望な大都市に、それは当り前の話だ。しかし、関西大学ぐらゐ、この中小工業者の「永久の都市」にびつたり来る学園はない。あり得ない。ここは象牙の塔なんかでない。庶

民の児が時勢の変化で、新時代の学問を身につける。懷徳堂が前代に範をみせてる。そんな風の大規模になつた形態も想定出来る。「学園した馬鹿」は、この門から出ないだろう。

私は就職難という問題を本学卒業生に就いては樂觀してゐる。それは学校が何の斡旋もせず、手をこまねいて放つて置いてよいというのでない。大阪の中小工業者が、どんな不景氣にも決して負けてしまわないように、この卒業生は、どうでも職業の「場」に躍り込む意力と能力を持つてゐると信じられる。一見絶望とみられる鉄壁も、どこからか乗り越す勇氣と根氣が、諸君に勝利をもたらすと確信する。就職難で神経衰弱になり自殺したりする氣の弱いものは、本学には居まい。そんなことでは、「永久の都市」の市民にならない。(文學部長)

Something of Anything and Anything of Something

今西庄次郎

関西大学を新に出で立つ諸君に何か一言という需めに對し、私は、新学士は単に高等な常識人に過ぎないことを云い度い。戦前の大学は学問の蘊奥を究める所とされ、若い学士が蘊奥とい

うほどのものを有つていたかどうかは暫く、法学士なら法学の、商学士なら経営学の専門的な知識を可成り有してゐた。然るに戦後の新制大学の卒業生は随分多くの学科を學んでゐるが、何れも極めて浅い。これは新制大学が、従来の日本の大学は専門に走り円満な知識人として欠けているというアメリカの勧告から生れた所産に外ならない。確に社会の知識階級は Anything に就いて Something を有たねばならない。併し人間は実社会に出ては何等の部門に従事する筈であり、その方面に於て有用な人物たらんには深い専門的な知識が必要なのである。つまり Something の Anything を有たねばならないのである。勿論、職業に従事しておれば経験から感得される知識もあろう。併し新しい、纏まつた知識を早く身につけるには学的態度を以て臨むに如くはない。新刊専門書の通読、講演会や研究会への出席、研究などそれである。要するに、新学士の勉学は大学を巣立つと共に終えたのでなく、

今後も続き、続けねばならないのである。尙、之等の勉学に當り私共教授は力の及ぶ限りお役に立たんことを念願してゐる。卒業生諸君、どうか母校にこの温い旧師の在ることを何時何時までも忘れないことを祈るものである。(商學部長)

偶感

桑原義隆

螢雪の功なり卒業する諸君に對し真心よりお祝い申し上げます。諸君は法文経商それぞれの道に向つて躍進されることと思ひますが、私は商科出身の先輩として商科の卒業生諸君に對し、経験を述べて参考の一端に資し以て今後何らかの参考ともなれば幸の至りです。

私は大正十四年南九州の一商業学校を卒業して、大阪市藤本ビルブローカー銀行に採用され終生務めるつもりで、自分の生家とも思つて務めていたが、昭和二年九月財團の変動に因り情け無くも職首されました。そこで如何にサラリーマンのはかない事を若年乍ら痛切に感じ、資本家の愛情なさを痛憤して将来を考えると何とあかして、独立しなければならぬいしかも資本家に左右されてはならないと深く感じ、弁護士を志し母校に飛び込むと思つたが、当時は学資を父兄にたよる道なく又職を得て勉学の道なくようやくにして、専門部夜間の商業学科を昭和九年三月卒業し南九州で商業学校教員の傍ら計理士を開業し、昭和二十五年十二月、特別公認會計士試験に合格し、現在では指導公認會計士税理士として

実務補習生、研習生、事務員等十数名を使用し、又新学期より県立大学で講義することとなり、各方面に活躍しています。皆さんは榮ある門出に於て、それぞれ目的は充分お持ちの事とは思いますが、私の述べました苦い経験に依りサラリーマン一辺倒より独立的方向も、亦何等かの御参考になり卒業の餞ともなれば幸の至りです。

(校友、鹿児島支部長公認会計士)

誠實な生き方

飯田正一

大学における学生生活は、単に学問の研究ということだけを目的とするものではない。諸君はそこで、人間として、人生的なあらゆる問題についても、真剣に考えて来たに違いない。諸君の親しい師友は、そうした問題についても、常に、好意に満ちた指導と助言を惜しまなかつた筈である。私も、及ばずながら、そういう心構えで諸君に接してきた。従つて、私は、今さら改まつて付け加えるべき何物も持たないのである。けれども、新しい人生の門出に立つ諸君を祝福して私の平生使ひなれた言葉を一言だけ繰返させて頂くならば、それは、誠実を貫く、ということである。私のとぼしい経験からいつても、自分に對し、人に對し、

常に誠実を持ちつづけてゆくという心とは、なかなか困難なことである。われわれは、順境にあればあるで、ともすれば謙虚な自己を忘れてしまふし、逆境にあればあるで、やはり正しい自己を見失いがちである。それは、共に、自己に對して誠実を欠いているからである。

しかし、自己に對して誠実であるということとは、自己の利害を主張する立場にあるものとし、我は、全体に對する個として、自己を推進めてゆくということなのである。従つて、自己に對して、誠実を貫くということは、同時に、他に對しても誠実なるゆえんであり、それがまた、そのまゝ全体に奉仕することでもなければならぬ。

立身出世というのは、明治の合言葉であつた。その言葉が、同じような意義と魅力を今でも持つてゐるかどうか、私は知らない。けれども、立身出世ということが、人を押しつけ、突き飛ばし、自分だけ前に出ようとするような考え方と結びついているものならば、私は、そうした立身出世を、寧ろ軽蔑する。事の成否は、予め問うべきではない。

心の誠をつくして、誠實な生き方をする。——自己に對し、他に對し、常にそうした生き方を押進めてゆけば、

われわれは、きつと豊かに充ち足りた心の生活を営むことが出来よう。私は、諸君が誠実を貫くことによつて、自己を確立すると共に、そうした美しい人間関係の社会を、諸君自らの手で、築き上げてゆくようにして頂きたいと思う。

(文藝部教授)

最後の勝利を

平井三朗

不況時代所謂就職難時代に学窓を巣立つた人達の中に最も多いのである。就職難時代に実社会にスタートする諸君の現実の心事に對しては誠に同情に堪えないが、然し、この辛酸も長い目で見れば決して不幸な前途ではなく寧ろ将来に幸福を孕んだ出発だと信ずるのである。

愆々学業を終えて、これから実社会への第一歩を踏み出さんとする諸君の洋々たる前途に對して心から祝福したい。これからの人生道中は決して且々たるものではない。一生を托する仕事の選択と就職先の決定とは真に重要なことではあるが、昨年の二倍以上を送り出すとあつては、その選択の余裕さえ無い現状は誠に同情に堪えない。然し過去に於て吾々は何と酷い体験を持つて居る。社会は幾度かの連続である。従つて人間は何時如何なる逆境に立されるか測り知れないのであるが、この不測の逆境を悠々と乗切つて行くには不拔の信念と逞しき気魄と旺盛なる実践力の所持者でなくてはならない。然し順風に帆をあげた航海では、これらの諸要素は決して養い得ないものである。試みに現在の一流の人物について検討してみると、これらの人物は

諸君が平々凡々たる一サラリーマンとして終るか、将亦一流の人物として少くとも光つた存在として世界人類の為に貢献し得る人士になるかは、今踏み出す第一歩の心構え如何に依つて分岐されるのである。労基法に依る勤務時間はどうだとか、美しくし背広に身を固めて居なければ大學卒業者の沽券に懸わると云う様な心事ならばその将来は知れたものだ。必要ならば葉葉服もよし、時間も超越しよう、この会社は俺が背負つて行くのだと云う意気込みがあつてこそ、会社と共に生き得る人であつてこそ将来の大成が期せられるのである。日本の各界殊に事業界に於ては健康にして明敏、仕事に對して積極的にして責任感と熱意の旺盛なる而も常に学才を誇らぬ謙虚な心、己を虚しうして社業にとけこみ得る新人を望むや切なるものがあると思ふ。

この際特に諸君に切望したいことは強健なる身体を保持して貰いたいことである。如何なる立派な人格者でもま

た如何に有能の士でも一度病気に侵されて長期立ち得ないとするならば遺憾ながら落伍せざるを得ず、充分にその天禀を發揮することが出来ないのみならず有機的活動を望む業界では、最早や無価値な存在になつて了うのである。前途有為の青年達が可惜英才を抱きながら病魔に倒れ去る姿は誠に忍び得ない人生の一大悲劇であり、国家的にも一大損失たることは論を俟ない。長い人生競争の最後の勝利を得るには何と云つても、健康と努力の生涯こそが最大の要約となつて来るのである。人生は急せる必要はない、只々頑健なる身体の保持に留意して撓まざる努力を続け常に希望を持ち立派な目標を樹てて一歩々々と力強く進んで行くことである。

(學生課長)

大學を出たら

春原源太郎

私は酒を飲まないから話が堅苦しくなるかもしれない。新しく大學を出る諸君にはそれぞれ希望をもっているであらうし、社会に出るだけの用意はできているであらうから今更先輩顔をして何も言うことはない筈である。たゞ私はこんなことができたらといつも考えている。

大學を出たら特に学問という分野に

居る人の外は学問と離れた生活をしてる様に思える人が多いので、これらの人生に本を読むこと、どんな時間を惜しんでも本を読むことを忘れないようにしてもらいたいと思う。それが大學を出た人の特権だと私は思っているから大いにその特権を振り廻して欲しい。時に娯楽雑誌を読むこともよい。しかし大學で基礎教育をうけた人でなければ残念ながら読み得ない、理解し難い本が多いことに気づくだろう。そのなかには自分の仕事に關係するものもあり、無關係だが読んでおかねばならない本もある。私共が毎日色々なものを読んでいながら自分の仕事に役立つているかと考えてみたら、本を読む程無駄な時間はないとも考えられる。私は今しきりに西鶴を読んでいるが私の生活環境と元祿時代の恋愛観や結婚観に何の連りがあるだろう。しかしそのなかにも自分の研究に何か役立つものがあるようにも考えられる。それは別に自分でたくわえなくても自然と積上げられてゆく、それが教養だと思ふ。

私はかつて学生時代に読む本の頁数を数えてみたことがあるが、仮りに一年に一万頁づゝ読んでいたとしても学生時代に読んだ本などはその後の人生に比べたらはなれてゆく。

卒業して数年経つた諸君に会つて、

何を読んでいるか、どんな研究や仕事に興味をもっているかを語り合う機会のないことが私共にも淋しいことだと思ふ。

大學を出たら——と諸君は思っているだろう。飲むこともよし、パチンコも麻雀もよしと私は思っている。しかしうんと本を読んで大學を出た人らしい気分が集りがあるときには参加させて欲しいと思つている。

(理事)

愛しき雛鳥へ

明石三郎

雄伏四年の大學生活を終えて実社会に旅立つ諸君に心からお祝い申し上げます。自分の娘を嫁入りさせる時の気持ちかと想像されるが、諸君が社会から歓迎され、幸福の道を進むよう祈つて止まない。私達は学生数の過剰と多忙のため決して指導が行届かなかつたことをお詫びするが、自ら成人してくれた諸君に感謝する。凡そ私大は官大に比べて学生数が多く一口に云えば野放しの傾向が強い。然しそのため一方では個性を伸ばす機会に恵まれ、また他方では官尊民卑の社会で、母校の名を当てにせず、徒手空拳独力で開拓してゆく逞しい生活力を養成する。就職困難な今年でも既に個々的には部分決している様子であるのはこの逞ましい生活

力の現れであろう。この独立独歩の氣風を今後大いに發揮して貰い度い。然し私は常々学生諸君に学生時代は寒肥えをしている時代だと説いて居る。

諸君らの過去の学生生活は社会的経済的条件が悪く、アルバイト等のために勉学を犠牲にするを余儀なくされた人達が多いであろう。その結果は寒肥えが不十分で、春の開花や夏の稔りの少くないかを憂うるものである。現に学生諸君の中に逢つて見てインテリゼンズを感じない学生が多い。諸君は実社会に出れば一年生から始める積りで謙遜に一歩々々をふみしめて行つて貰い度いが、他面には常に読書によつてインテリゼンズを磨き、併せて批判的精神を忘れぬよう心掛けて貰い度い。これが大學卒業生に課せられた使命であつて、諸君を中等学校卒業者と區別する指標でもあり、従つて諸君を将来社会の指導者として偉大ならしめる要素となるからである。それから最後に諸君も想像の通り今の実社会は決して風波の穏かなものではない。必ず神話を太く持つて生き貫かれるよう祈つて止まない。人生至るところ青山あり、また人肩ありて着すと云うことなく、口ありて食わずと云うことなし(道元)生に徹せられるよう。幸い本学は歴史が古く、卒業生が今日至る職場に活躍し、成功している先輩の多いことは諸

君らにも大いに力を与えられることであらう。理想高きは良し、されど難口となるも牛後となる勿れ、職場の良い悪いを云わず社会の齒車の一齒として己が職場に第一等の人たるの心掛を持つて戴き度い。その教え子に幾多の英才を生み、嘗て北海道大学講師だった Clerk 師が訣別に當つての言葉を贈らして貰ふ。

Fly high, go straight, but steadily.

諸君らへの愛惜の情はうたゞ尽きない。希くは諸君らの将来に栄光あれ。

よつとせを飛ばさず鳴かずに

たくわえし

力もて飛べいとし雛鳥

(文學部教授)

卒業生に與へる言葉

横田 健 一

卒業!! それは人生への喜ばしく希望にみちた、しかし一抹の不安を宿した門出のときであり、甘酸味のする去りゆく青春の日に対する哀愁の思ひ出にみちた一ときである。そうした思いを毎春新卒業生諸君から聞かされてきた。そのたびに毎春悲しく思うことは、去りゆく学園に対するいろいろの不平と苦情をきかされることであつた。中には「関西大学株式会社」の声をかち得るであらう。

でも、その最大のものは、授業料に比し設備の不十分、学生の大量生産(教授の数の少く、教室の狭く数の少く、学生の多いこと)、即ち教授から充分に人格的個人指導を受け得ぬことに帰するであらう。それは恵まれた一流の国立大学や少数の私立大学に比して確かに同情に値する。しかしだからといって学校に何の愛着もなく、卒業証書と授業料とを引かえに学園を出れば、母校を軽蔑し、顧みないという人々には心淋しい思いがすると共に、それらの人々は自ら自分を軽んじているのではないかと疑はざるを得ない。私大は国立に比すればその経費の殆んど全額を授業料に依存せねばならぬ故、学生の負担は大きい割合に恵まれない。かの私大の雄早稲田をもつてしても、総予算五億三千万円中、授業料が四億六千万円を占めるに對し、東大は総予算八億九千万円中授業料はわずかに三千六百万円であるという。もつて私大の設備に恵まれぬ所以は瞭然である。だからといって不完全な母校を非難したり、不平をいつてみても母校の改善は望み得ないであらう。卒業後も後輩に任せておかずいつまでも育て守つて頂きたい。母校がよくなり、世間の人々が認めるようになれば学生の質もよくなり、卒業生諸氏もまたそれだけ尊敬

されて本学の施設を顧るに確かに現状は著しく不十分であらう。そのよつて来るところをみるならば、かの日華事変勃發後十年余の間に建つた校舎は一棟もない。これは他の大学でも概ね同様である。それは戦後の膨脹に對して不足の大きい一因であらう。戦争の為資材は統制され、セメントも鉄材も木材も悉く戦争に動員されたのであり、必ずしも当時の理事者の無為無策によるばかりではなかつたらう。ところが戦後荒廢の数年を経て、漸く平和と常態が回復してくるや、学園の建設もまた始まつた。それより僅か四年程の間に校舎研究室の新築、修理、図書の充実、教授陣の増加等短期間の割に相当の進歩がみられる。これは学長、学生、教職員それぞれの努力によるものであらうが、なんといつても平和回復の賜であることは否み得ない。今後十年戦争が起らず平和が続き、現在同様の建設がつけられたならば学園の發展は著しいものがあり、十年後の卒業生の不平はかなり緩和されるに違いない。しかし懸念されることはその間にもし戦争が起つたり、再軍備が著しく強化され、折角校舎となるべきセメントや鉄筋が要塞や大砲や戦車にならぬともかぎらぬことである。新卒業生諸君、どうか卒業後も母校を軽んぜらるることなく、施設の改善を顧み、後

進をみちびくことに努力されるときにも、また学園否教育の發展に重大な要件である平和の擁護、戦争の防止にも尽されんことをお願いする。

(文學部教授)

學報購讀者各位にお知らせ

校友をはじめ學報購讀者各位にお知らせ少々お願い致します。

學報は各位の御支援と御協力により毎号順調に發行されて居ります。つきましては来る三月を以て各位の大部分の方々購読料切れになつて居ります。購読料切れの場合は發送の封封にその旨略記致してありますから御注意下さい。向來年度の購読料年間三百円の予定でございます。頁数も増加して學報の使命に充分副いたと思つて居ります。

螢雪の功成り目度度卒業される学生諸君に心からお慶び申し上げます。卒業後も母校の動きを知るといふ意味においても、學報の御購読をお願い致します。購読料甲込は何時でも結構、天六の學報局へ御一報下されば幸甚です。

右お知らせ少々お願い迄。

昭和二十八年三月

関西大学學報局

(尚御送金の際は振替口座大阪二六七七二番を御利用下されば便利です)

学内こぼれ話

ミスター「イキブキ」

受験番號「第一號」

先頃華やかに展開した入試シーズンの最中関大でもABC朝日放送を通じて「学園だより」を放送した。ABCでもベスト・スタツフを取揃えての演出でどうか無事に終つたとは云うものゝ、録音・試聴と楽屋は正にてんやわんや、仲々ス・ムズにはかどらない。録音開始の時刻が遅れるのは朝飯前、こゝを変えろ、あそこは無理だとスポンサーの文句より先方の泣言の方が多い。さて愈々録音となるとうら寒いスポンサー室でたつた五分間の放送録音に十分五分とかゝる。いらした氣持でこの間を待つのは堪らない苦痛。先日もいつもながらのスロー振りに業を煮やしてテストを聞いていると、自信満々のアナ君、何を思つたか「息吹」を「イキブキ」とやつた。手持無沙汰も手傳つて早速プロデューサーへねじ込み、常識がないの、人が笑うのと口やかましい事、その場はそれでどうか訂正ということに納つたが、納らないのはこつちの方、あのアナ君の名前は何かというのだろう。誰も知らない、唯くやしまぎれに名付けて曰く、ミスター「イキブキ」。快哉を叫びたくなる程胸のすく様な夜であつた (O)

卒業後の狭き門もさる事ながら、進学の門も仲々せまい。そこで起るのが珍劇喜劇、悲劇。

こゝに開校以来というレコード・ホルダーが出現した。受験番號No.1をねらつて午前十時から願書受付に、早朝霜を踏んで何と六時半から窓口にならんだ受験志願者がいる。しかし上には上があるもので、受付の十日も前からこのNo.1志願者が二人書類郵送といふのがあり、折角の努力も遂に番號No.3ということに決つた書類郵送という手迄は氣が付かなかつたらしい。縁起をかついでのNo.1へのこの努力、至誠神に通じてかどうか見事合格の栄冠をかち得た、目出度し。

現代學生氣質

進學となると誰しも大事を取つて二校以上を志望するのがまず常識。ある日某大学生A真剣な面差しで窓口で係の人と話をしている。曰く

A「私の弟がおたくを受験したいと云うのですが、他の学校と試験日が重なりますので少々困つてゐるんです」

係「それはお氣の毒ですね」

A「そこでお願ひですが、……」
と如何にも思案顔をして

A「おたくの試験日を延期していた方がいいでしょうか」

係「……………」

窓口子このはかなき願ひに目を白黒。偉大なるコモンセンスの持主に心から敬意を表した次第。(一高の窓口から)

懸賞金付問題騒ぎ

関大には珍らしい理学博士という肩書をもつO教授、いつぞやの駄文の罪滅しにと、先頃から毎号連続で何か面白そうなものを書くと言言されて考えつかれたのが懸賞金付考え物、懸賞金付きと云うのであつたのは学報編集子、飛んで行つて伺いを立てると、

「なーに、心配しなさんな貧乏財布から出るものだから知れてるよ」

折角息ごんで駆けつけた編集子の一攫千金の夢破れ、肩で息を二度、三度。御希望の方があれば何が景品に出るか教授に尋ねて下さい。問題の解答は学報局でお取次ぎはしますが……。

学報速報

大島氏渡歐

東京發 田口義行氏報、本学評議員、毎日新聞社スポーツ部長大島賢吉氏(昭

九大法、自宅東京都新宿区百人町四、戸山アパート第六号一二五)は来る七月西ドイツで開催される世界大学スポーツ週間に日本代表として戦後再度渡欧することになった。

猶世界大学スポーツ週間には各国より学者も集り、大学スポーツに関する論文提出及び討論が行われる

北村徳太郎氏

国会で演説

東京發 田口義行氏報、国会混乱状態收拾の最後の手段として野党連合による政府不信任案が国会に上程されるが本学推薦校友北村徳太郎氏(改)は三月十四日衆議院本会議に於て政府不信任案提出理由を改進黨代表として説明することになった。

村野藤吾氏に藝術院賞

本学大学院を始め大学ホール、研究室等の建築に、異常なる誠意と努力を傾注せられた村野藤吾氏に、多年建築界に盡された功績により日本藝術家最高の榮譽である藝術院賞を授与される事になった。同氏の本学の建築の他、戦後特色あるものとして大阪のそごう百貨店の設計は、氏の深いある意欲を充分發揮したものと云えよう。

向村野氏は去る二月末渡米建築界視察の為アメリカに出発されている。

學生

明暗一途の交錯

体育各部
新地圖

二十五名卒業の部も

前号未記載の各部新陣容に就いて紹介する。

◎ヨット部 主將米田、御立、広岡の三名が卒業する。これで当部創設期からの、レギュラーは、一応、全部卒業することになる。入学後直ちに入部、良く先輩に伍して懸量ながらジンギの操艇に活躍、各地の大会に毎年本学の得点能力に大きな役割を果してきた御立、昨年春季関西学生選手権に優勝の原動力をなしたスナイプの広岡等の卒業は、当部にとつては、大きなマイナスであろう。

新主將佐伯、マネージャー河合により再出発する訳であるが、一高より六名の部員の進学入部が予定されて居り、他に一名が候補に登つて居る。然し本年より国際ルールに従い、ジンギが一艇一名（従来は二名）になるので、相当ウエイトのある部員でなければ強風下の試合には臨めなくなる。現在の処、重量のある部員の入部が、期待されないもので、この点に大きな不安があるが、部員の全部が低学年で固めているので、各自がウエイトの増加に心懸けることを望み度い。

◎馬術部 主將池永副將三宅の二名のみ卒業で、新主將河畑を除けば、マネージャー中井を始め、低学年ばかりであ

り、昨春、東部の三大学（慶応大、法政大、日本大）と戦いストレットで勝ち、

秋季は、関西三大学定期戦に、立命、同大を破り、多年の宿望であつた関西大にも圧倒的大差をもつて優勝した。主要メンバーである宇津呂、中井、宇山が残るのは心強く、一高から数名の進学入部が予定されているので、本年の当部の活躍が期待されるが、現在、保有馬一頭きりでは練習にこと欠くのが懸念されている

◎フエシング部 この部もヨット部と同じく創設期からの部員である主將干鳥、副將酒田、野呂、河合と四名卒業する。新マネージャー保本が本年度最高学年になる唯一名で、新主將近葉、副將野上始め全員が低学年で固められ、漸く技術的に、千鳥、酒田、野呂等の域に達しようとしているし、本年二年次になる部員の旺盛な闘志に唯一の期待が懸けられる。再出発する部であつて、この辺から新しい傳統を生み出さなければならぬ年でもある。

◎蹴球部 主將恒藤始め、副將伊藤、マネージャー福山、乙畔、二宮、島山、秋田、川口、島、等の九人が卒業するが新主將三田と、入部以来、眼覚ましい活躍を続け、東西対抗にも選出された寛を

中心に、前川兄弟、木村、恒藤弟と、チームワークと傳統の闘志に期待されるものがあり、本年こそは久し振りに本学え関西学生選手権をもたらすよう精進が望まれる。

◎排球部 当部は本年一名の卒業者もなく、前年度に引続き山本が主將を勤め陣容には変りがない。一部昇格えの三年計画も着々進められて漸く二部で優勝を競う練まで来たが、昨年は、立、京、本学と三校同率の決戦に不覚の一敗を立大に喫して野望ならず、山本主將以下、楢崎、足立、難波の脂の乗り切つたレギュラーに、巨人今村の進歩がプラスされるならば、本春関西リーグには絶対、二部優勝、一部昇格が実現されるであろう、新入部員として予想される数は、未だ出ていないが卒業者がないだけに、チーム力には何の不安もない訳である。

◎体操部 向谷、小木の二名が卒業するが、レギュラーには変動はない。復活二年目にして西日本学生選手権の二部に優勝し、一部に昇格した原動力、白石、大杉、戸田のトリオに加えて本年は高校界の俊鋭が四五名入学を予定されて居り他に優秀な部員三名も入学を希望して来ている。

◎送球部 主將吉本、マネージャー塩山、田辺の三名のみの卒業であり、戦力に影響はない。新主將宮脇、マネージャー奥西の他、現役は全部新四年次及び低

学年であり、新入学希望者も十二三名あり、本年は相当地に充実した陣容になり、こゝ一、二年あえいだ不調も復調が予想せられ、春季は無理だが、秋季リーグへの希望は大きい。

◎撓籠技部 主將須鎗、矢野、植松の三名を送り出すが、須鎗、矢野両君の卒業は当部にとつては惜しい。それ程の戦果を過去一年に両君は挙げているからである。新主將深山は又、関西撓籠技界で鳴らしているもので、戦後の空白時代の新人達を指導し、新主將として部内強化には適材であろう、和田、増田、佐伯等、二ヶ年で現在までに腕を挙げているのであるから、この諸君第が中堅となつての活躍も期待されるものがあり、新入学予定は現在一名のみである。

◎空手部 主將島田、副主將児子、村上、成田、田中、橋本等六名が卒業、新主將明地、マネージャー丹地、部員六十名の大世帯であるが、歴戦不敗の傳統を失しなうことはあるまい。学年試験を控えて寒稽古にも技を練り業に励んだ。年々部員数が増加する一方で、本年は新入生を加えると百名を超えるのではないかと思われ。体育部最大の部員数を擁する部となるであろう。

◎軟式庭球部 西日本学生ランキング第一位小川始め九名の卒業は、当部にとつては相當の打撃であろう、小川との名コンビ岡本が引続き主將を務めるが、練

習熟心な、飯塚、大谷、礎野、大田等を送り出した後は、宮下、長船、福島、石崎、を最高学年にして、二十数名の部員が、二、三年次をしめるので、量に不足はない。新入学希望は十二三名予定されているが、部員四十名にもなれば、練習コート二面では、レギュラー以外の練習は望めないのが悩みであろう。

◎軟式野球部 主將多胡、副將黒田、マネージャー古川の他、中谷、中防、木全、岡村、岡本の八名が卒業する。部創生期から前々主將宮田、前主將渡部と引継いで、二十七年度全国的に当部を活躍せしめた多胡主將、これを助けた名マネージャー古川の当部に対する功績は実に大きなものがある。更に投手として各大会に活躍した、黒田、中谷の功績も忘れられない。その他本春卒業諸君は、何れも部創生時から苦業を伴にした人達であり、その卒業を惜しまれるが、投手北川捕手大東、強打者岸野外野手、名三壘手神戸等が残るので、本年度は、部創設以来、最も充実した実力を擁し、昨年度以上の活躍が期待され、又戦果も約束されている。

◎拳法部 主將小西以下二十四名の大量卒業者を出す唯一の部である。学生拳法界に勇名を轟かせた辻見副將始め、小田、増田、那須等いづれも、昨年度の推進力であったこれ等の部員諸君が、二十五名も抜けることは、当然戦力に大きく

響き、跡に続く者の余程の努力がない限り、宿敵関学大に対抗出来得ないのではないかとさえ危ぶまれる、新主將酒井の部統率力に期待するものが大きい。

日景飛躍で活躍

全日、国体で好記録

二月十八日より五日間、秋田県大館市に於いて、第三十一回全日スキー選手権第八回国体が同時に開催される。本学スキー部員は、大阪府代表として出場、また個人選手権には、世界選手権への出場が懸けられているだけに熱戦が予想される。長距離には、あらゆる新聞の予想をくつがえして全日学生選手権に優勝した、本学の後藤も参加するが、一般の参加があり、オリンピック選手も多数参加することであり、優勝は容易の業ではなく、どの程度に食い込む健闘を示すか、全日学生の際のような成績を期待する。その他の種目(耐久、滑降、回転、飛躍)



には、入賞予想者に名を連ねる者のないのは淋しい。

二月二十日第八回国体第三日、大館会場で純飛躍が舉行されたが、転倒失格する選手が多く、成年組では大阪代表として出場した。本学日景選手が、二一五・七で第二位に入賞、大阪に貴重な得点を加えた。飛距離五十米の中級ジャンプで、落下度が大きく飛び難いジャンプであったし、降雪の所為もあつて転倒者が多かつたようであつた。日景選手は、一位入賞者より飛距離は遠かつたが、飛躍で一位を譲つたのは惜しまれる。(写真は全日学生選手権、長距離に優勝した後藤)

二月十五日府立体育館に於いて、全関西室内送球選手権大会が開催された、室内は七人制であり、学年試験の最中で、全然練習もせず本学送球部は参加したが第一戦桃蔭クラブに、五対三で勝ち、準決勝に全国の雄、関学大と対戦

本学 1(01—15)8 関学大
の大差をもつて敗れた。

三月下旬、大阪スケート場に於いて、第一回関西三大学氷上ホッケー・リーグ戦が開催されるが、全関西氷上選手権に手合せをしたチーム同志であり、本学アイス・ホッケー部としては、アイフエン・チームと云う汚名を返上、バ



ス・ワークに一段と工夫を積み、オフエンスのチームに変らなければ、絶対、優勝の望みはない。学年試験の余暇を利用して部員一同の熱心な練習に期待するものがある。

(写真は全関西氷上選手権に於けるホッケー戦)

卒業生各位にお願い

栄えある御卒業を心からおよろこび甲上げます。卒業後は何かと母校よりの連絡もあると思えますから、就職先及住所等異動の折は出来るだけ早く校友課にも御一報下さい。常に正確に諸君の状況を知り少しでも何かに役立てようというのがこちらの希望です。お含み置き下さい。

大阪市大淀区長柄中通二

関西大学校友課

考へ物新題 其の二 一 鷄学 人

遊覧コース

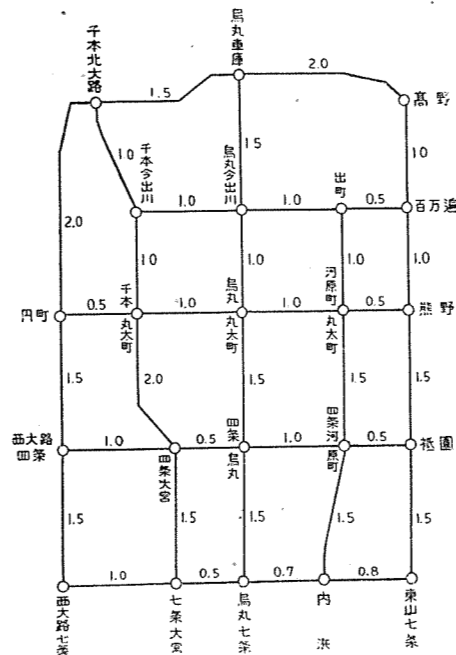
春ともなれば都大路は遊覧バスが汎濫し、春はバスに乗つてと云う風景が展開されます。先日郷里から親戚の者が来ましたので遊覧バスの御厄介になりましたが、短時間に要領よく多くの名所旧蹟を案内してくれるのに感心しました。考えて見れば当り前で、一つの遊覧コースを決定するにも道順は勿論、道路の善し悪しから勾配まで調査して、最短の時間、最小のガソリンで最大の効果が得られるよう不断的努力が払はれている筈です。京都在住廿年を鼻にかけて知つたかぶつてハイヤーを乗廻したところで太刀打出来ないのは当然で「只見れば何の苦もなき水鳥」ではありませんが、案内嬢の美声に聞きはれてる中に走り過ぎる一軒一軒にも、その決定には血のにずむような研究努力が払はれているのです。と申し上げただけではピンと来ない方が多からうと思ひますので、一つ御自身で遊覧コースを作成し道順の決定が如何に面倒であるかを体験して頂くことにしよう。

線路の全長が四百軒になります。今この二十二個所の停留所を名所旧蹟と見做し且つその沿線はいたるどころ風光賞すべきものと仮定します。従つて總ての沿線を廻るよう遊覧コースを決定しなければなりません。この場合の最短距離は何軒でしょうと云うのが今回の問題です。出発点はどの停留所でも結構ですが最後は烏丸車庫へ帰るようにして下さい。勿論同一線を何回通つても差支えありませんが余り何回も通ると軒数が増えますから御注意下さい。自信のある遊覧コースが出来た方は順路と軒数とをはがきに明記して学報編輯部まで御提出下さい。

前回の七五三の法に就て二、三の方から質問や激励の御言葉を頂きました。その中に解答を直ぐ発表するのは芸がない解答を募集してその反響を求むべきなどの御意見がありました。至極妙案と思ひますので今回から解答を募集することに致します。正解者先着三名に甚だ失礼ですが編輯部を経て私のポケットマネーから粗品を進呈することに致します。無い智慧をしぼつて作成した筆者の苦裏を御賢察下さつて、激励の意味に於きまして多数の方が御応募下さらんことを切望いたします。尚前回の問題を再録して置きますから是亦計算式と答を書いて御提出下さるよう御願申上ます。

年度末年度始諸行事

- 三月、四月は大学の最も忙しい月。入試入学と気ぜわしきは又ひとしお。色々諸行事の中から拾つてみました。
- | | | | |
|-------|--------------|--------|-------------|
| 三月三日 | 一高入学願書の受付締切 | 三月二十四日 | 短大入学試験 |
| 三月四日 | 同入学適性検査 | 三月二十五日 | 学部二部入学試験 |
| 三月七日 | 同合格者発表 | 三月二十八日 | 短大合格者発表 |
| 三月九日 | 学部一部受験願書受付締切 | 三月三十日 | 学部二部合格者発表 |
| 三月十二日 | 経・商入学試験 | 四月十五日 | 入学式(各学部共) |
| 三月十四日 | 法・文入学試験 | 四月十六日 | 授業開始(一年次) |
| | | 四月二十日 | 授業開始(二年次以上) |



前回の問題 三、五、七、十一、十三、十七で割つて夫々一、二、三、四、五、六が余る最小数を求めよ。(短大教授)

観客席から

戦後音楽ブームが急激し、入場券の購入、予告の広告に血眼という熱の入れ方。日本も文化国家たりノと随喜法悦したき所なれど、一寸顔を廻らせば、こは如何に、音楽と縁遠い様な御仁が誇らげに、小さな座席一杯に占領して御座る。

芸術観賞の美名の許に、妙なる音を聴いておいでの様だが、時折、何かをソシヤク運動に供してをられる姿は暗闇の中とはいへ感心出来兼ねる。もう少しエテケットとかいう面白くもないものに、氣を配つて頂き度き所。又演奏中、真暗い影が暗躍するのは非常に残念なるきはみ。

最近の音楽ブームの波にのつて、新進演奏家の出現は日本楽壇に取つて大いに喜ぶべき次第。それらの方々は自己の能力一杯、大いに奮戦してをられる。実に涙ぐましい態度なり。心から感謝と今後の御奮斗をお祈りする。所が、その様な御仁ばかりにあらずノ 名声あるを幸ひ、芸術家ならぬ、商人たる御仁があるは音楽芸術を冒読するも甚だしいと言ひ度い。演奏料の高低により或は会場によつて、能力の出し惜しみ、演奏上の手か

げん、実に憤満の至り。何ノ 誰ですか？ 入場料カヘセノ とは、芸術家は芸術にてい身してこそ芸術家の道なるべしやと思うが？ (W)

學士號の種類と關係學部

学内報で一部お知らせしましたが、志士号の種別表を次に掲げて御参考供します。

- 文学部〔文学士〕 教養学部〔教養学士〕
- 学藝学部〔学藝学士〕 (但し、文科、家政科、生活科学科等学科が確立しているものは文学士、家政学士) 文理学部〔文科系学科 文学士、理科系学科 理学士〕
- 文藝学部〔文学士〕 教育学部〔教育学士〕
- 人文学部〔文学士〕 英文学部〔文学士〕
- 文政学部〔文科系学科 文学士、政治学 科 政治学士〕 文経学部〔文科系学科 文学士、経済系学科 経済学士〕 外国語学部〔文学士〕 法文学部〔法科系学科 法学士、文科系学科 文学士〕 法学部〔法学士〕 神学部〔神学士〕 仏教学部〔文学士〕 社会学部〔社会学士〕 社会科学部〔社会科学士〕 法商学部〔法学科 法学士、商学科 商学士〕 法経学部〔法学科 法学士、経済学科 経済学士〕 政治経済部 政経学部〔政治学科 政治学士 経済学科 経済学士〕 経済学部〔経済学士〕 商

- 学部〔商学士〕 商経学部〔商学士〕 (但し、商学科は商学士、経済学科は経済学士、経営学科は経営学士としても可) 文商学部〔文科 文学士、商科 商学士〕
- 経営学部〔経営学士〕 理学部〔理学士〕 理工学部〔理科系学科 理学士、工科系学科 工学士〕 文家政学部〔文科系学科 文学士、家政関係学科 家政学士〕 家政学部〔家政学士〕 医学部〔医学士〕 歯学部〔歯学士〕 薬学部〔薬学士〕 工学部〔工学士〕 農学部〔農学士〕 獣医学部〔獣医学士〕 獣医畜産学部〔農学士〕 (但し 獣医学科 獣医学士、畜産科 農学士としても可) 農獣医学部〔農科系学科 農学士、獣医学科 獣医学士、水産学科は水産学士〕 水産学部〔水産学士〕 美術学部〔藝術学士〕 音楽学部〔藝術学士〕 藝術学部〔藝術学士〕 体育学部〔体育学士〕

【編集後記】

◇入試シーズンになつて大学事務当局もねじ鉢巻の大車輪。受験者も昨年度に比し約四〇〇名増の四六二名。四月の中頃はこの状態が続くのだそう、御苦勞な話でもある。

◇三月の声を聞くとそれだけで暖かくなつた様な気がする。各地の櫻も今月は平年より早咲きと傳えられ、早く行楽プランがチラホラ。

◇新校友名簿が完成して申込者殺到、可成り以前から待たれていただけに当然の事とは云うものゝ、長年苦勞した校友課の努力もこれで報われようというもの。

◇先月の編集後記の記事に早速Y新聞から問合せ、せいぜい宣敷くと云われて見れば何となく提灯記事を書いた様でバツの悪い事。

◇今月号に掲載記事に対する全国の校友を始め教授、理事等の意外な程の積極的な御協力に編集部も感激の至り。題して曰く「新卒業生へ贈る言葉」厚く御礼甲上げると共に今後共御指導と御協力の程を (O)

昭和二十八年三月十日印刷
昭和二十八年三月十五日発行

関西大学學報 第二五七號

一年誌代実費三〇〇円(送料共)

大阪市長柄中通二丁目二番地

編集人 松 生 和 夫

印刷者 西 井 幾 藏

大阪市長柄川崎町三七

印刷所 株式 印刷所

電話堀川 七三〇二番

電話堀川 三一九三番

大阪市長柄中通二丁目
發行所 関西大学學報局

電話堀川(36)一七五六番
振替 大阪 二六七七二番

關西大學學生募集

大學院

法学研究科—公法專攻・私法專攻 六〇名
 文学研究科—英文學專攻・國文學專攻・哲學專攻・史學專攻 六〇名
 経済学研究科—經濟學專攻 五〇名
 (修士課程)

出願期間 三月一日—四月八日
 試験期日 四月十日・十一日
 博士課程は修士課程に準ずる

學部

部	第一、二部	出願期間	試験期日
法学部	第一部(風) 第二部(夜)	第一部(法・文学部) 三年三月二日—三月廿四日 第二部(經・商学部) 三年三月二日—三月廿四日	第一部(法・文学部) 三年三月廿四日 第二部(經・商学部) 三年三月廿七日
文学部	第一部(風) 第二部(夜)	第一部(法・文・經) 一年二月二日—三月廿三日 第二部(商学部) 三年三月二日—三月廿四日	第一部(法・文・經) 一年三月廿五日 第二部(商・学部) 三年三月廿七日
経済学部	第一部(風) 第二部(夜)	第一部(法・文学部) 三年三月二日—三月廿四日 第二部(經・商学部) 三年三月二日—三月廿四日	第一部(法・文学部) 三年三月廿七日 第二部(經・商学部) 三年三月廿七日
商学部	第一部(風) 第二部(夜)	第一部(法・文・經) 一年二月二日—三月廿三日 第二部(商学部) 三年三月二日—三月廿四日	第一部(法・文・經) 一年三月廿五日 第二部(商・学部) 三年三月廿七日

○第二部第一年次の入學試験に関する全ての事項及び入學後の授業は大阪市内天六學舎で行う

短期大學部 商工経営部
 第一部(風) 二〇〇名
 第二部(夜) 二〇〇名

出願期間 第一、二部とも二月二日—三月廿三日
 試験期日 第一、二部とも三月廿四日

◎入學要覽 五十四小切手同封の上所在地に申込下さい

大學院・學部

大阪府吹田市千里山
 電話吹田123・461

短期大學部

大阪市大淀区长柄中通
 電話堀川1756・2072—3・3332